

## 澤穂希選手

女子サッカーのレジェンド、澤穂希選手が現役引退を表明した。1993年に15歳で日本代表入り、20年余りにわたって第一線で活躍した、まさになでしこジャパンの顔。スポーツ選手

### 核心 核論

である以上、体力的な限界がいつかは来るとはいえ、代表の青色ユニホームの「10」番が最も似合う選手であった。澤選手がピッチにいない喪失感は、サッカー界だけでなく、私たちに

## 背中はその人を物語る

とつても小さくない。

澤選手は多くのものを残した。主将として臨んだ2011年のワールドカップ(W杯)で世界の頂点に立ち、東日本大震災の未曾有の被害に立ち尽くす私たちに勇気と力を与えてくれた。それと並び、いやそれ以上に記憶に刻まれている言葉がある。4位に入賞した08年の北京五輪の時、チームメイトに対し「苦しくなったら、私の背中を見て」と鼓舞した場面だ。

簡単に口にするものではない。そこには、どこまでもストイックに自身を鍛え上げ、常に全力でプレーしてきた心と体への強烈な自負が込められた一言。女子サッカーに注目が集まらない低迷期から屋台骨とし

て引つ張ってきたからこそ言えた。その澤選手の背中を追って、なでしこの選手たちは練習に打ち込み、ついにチャンピオンの座をつかむ。

スポーツに限らず、こんなりリーダーを持った部下は幸せだろう。引退の記者会見で「心と体が一致してトップレベルで戦うことができなくなった」と説明したのは澤選手らしかった。

「親の背を見て子は育つ」とよく言われるように、背中はその人を物語る。あなたはその自信を持って背中を見せられますか。年末、あらためてわが身を省みたい。試合はまだある。ピッチを走る澤選手の背中を目に焼き付けよう。「苦労さま」の感謝とともに。

2015年  
12月22日  
朝刊

①澤選手は、どんな気持ちで「苦しくなったら、私の背中を見て」と言ったと思いますか。

②澤選手に言われた選手は、何を思ったのでしょうか。

年 組 名前